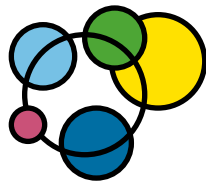


そわにえ
Soigner



第33号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2017年6月30日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
公益社団法人 東京都看護協会内
東京訪問看護ステーション協議会 気付
tokyohoukanst@yahoo.co.jp
http://www.tokyohoukan-st.jp

INDEX/	ステーション紹介 ……④
ぼん・くらーじゅ ……①	ホームページ・メルマガの活用について ……⑥
総会報告 ……②	美味しいもの紹介 ……⑦
研修報告 ……②	編集後記他 ……⑧
わかりやすい経営学 ……③	



両国国技館(墨田区)



「地域でその人らしく暮らすために」

在宅ケア移行支援研究所
宇都宮オフィス

宇都宮 宏子

東京訪問看護ステーション協議会の皆さん、こんにちは。宇都宮宏子です。私は、1991年から訪問看護の世界に入り、2002年病院に戻り入院医療から在宅療養への移行支援を進めるための仕組み「退院支援・退院調整の3段階方式」を確立してきました。そして、全国の病院に広げ、外来・病棟看護師が主体的に「在宅療養移行支援」に取り組めるように、2014年独立開業し、講演やアドバイザー活動に取り組んでいます。

私がなぜ訪問看護から病院に戻ったのか、そして病院の退院支援から起業を考えたのか。そこには、訪問看護師時代に多くのことを教えてくれた「はなさん」の存在が大きく影響しています。はなさんは、重度のアルツハイマー型認知症でしたが、いつも私が訪問すると笑顔で迎えてくれました。散歩(徘徊と言われていたけど…)中には、近所の子供たちが「はなばあちゃん」と声をかけて集まってくる、そんな温かい地域で生活をしてい

ました。ある日、はなさんがしりもちをついて恥骨骨折と診断され、緊急で受診した整形

Bon Courage
ぼん・くらーじゅ

外科の医師から入院を勧められたと娘さんから連絡がありました。私には突然の入院で混乱して大きい声を出したり、帰ろうと思って動こうとしたりするはなさんが容易に想像できました。「病院では身体拘束や鎮静もあるかもしれない、2、3週間の入院で歩けなくなる可能性も高いだろう。」そう考えた私は娘さんに、「家で看る？毎日訪問するよ」と伝え、整形外科の医師にも毎日訪問し、様子を報告することを約束しました。はなさんは、2週間目には自分で座ることができるようになり、4週間後にはいつもの生活に戻ることができました。

はなさんが教えてくれた「暮らしの場だからこそ発揮できる本人の持つ力を信じること」が私の真ん中にあり、「ぶれない自分」を支えてくれているのだと思います。入院医療は、時に生活や人生を遮断する。地域でその人らしく暮らすことを実現するために何が必要かを考える活動をこれからも続けていきます。東京で働く訪問看護師さんも一緒に活動していきましょう。